

■中村久子 重度身障者。両手足失いながら、見世物興行などで自立、子育てしながら、全国を講演行脚。

なかむらひさこ

八幡製鉄始・1897＝ 岐阜県高山で、豊職人釜鳴栄太郎の長女に生まれる。母はあや。

Bushidou・・1899＝ 2歳： 足のしもやけがもとで突発性脱疽となり、左右の手は手首から、左足は脛脛から、右足は踵から切断。
痛みに泣き叫ぶ日が続く。

田中正造直訴1901＝ 4歳： 弟栄三が誕生。
貧乏のどん底のなか、安楽死とまで思いつめた両親と血の滲むような苦闘の日々が続く。

日比谷公園・1903＝ 6歳： つききりで世話してくれていた父が、急性脳膜炎となり、急死。

日露戦争始・1904＝ 7歳： 小学校から入学通知が来るも、結局許されず。母の再婚により、藤田家の一員となるが、継父により、家の中に軟禁される。間もなく失明、思いつめた母は心中を考えるも踏みとどまり、その後視力が回復。

日露戦争終・1905＝ 8歳：

満鉄発足・・1906＝ 9歳： 弟栄三が岐阜加納育児院へ送られ、生別。

祖母丸野ゆきに可愛がられ、独り立ちできることを願う母の厳しいしつけで、久子は口で字が書け、布が縫えるまでになる。

明治天皇没・1912＝15歳：

21ヶ条要求・1915＝18歳： 訪ねて来た亡き父の親友から、食べて行くには、見世物として生きるしかないと言われ、悩んだ末、
民本主義・・1916＝19歳： *自ら見世物小屋に売られ、荷車に乗せられて郷里口回山を出る。名古屋大須(宝座)で"だるま娘"の看板で、見世物芸人の生活が始まる。以後、この世界の暖かさと冷たさを身をもって知りながら、日本全国をはじめ朝鮮・台湾・満洲まで巡業に流れ歩く。好奇の目に囲まれながらも、激しい闘志で誇りを失わず、"泥のなかに咲く花"として、のちに書道の大家となる沖六鳳と出会い、以後、生涯にわたって親交。また、訪ねて来た人から、弟栄三の消息を教えられ、手紙を交換するも、

大暴落・・・1920＝23歳： 弟栄三が丹毒となり見舞いにかけてつけるも急逝、続いて、祖母から母あやの死を知らせる手紙を受取る。

原敬首相暗殺1921＝24歳： 身のまわりを世話してくれていた中谷雄三と結婚、

水平社結成・1922＝25歳： 長女美智子を無事出産し、ようやく自分の一座を持つも、

関東大震災・1923＝26歳： 夫雄三が腸結核となり、看病するうち、祖母危篤の報に初めて帰郷、親戚に冷たくされるうち、関東大震災の報に、苦勞して帰京するが、夫は死去、続いて祖母死去の報を受取る。進士由太と再婚、

護憲三派圧勝1924＝27歳： 大入り満員の盛況のなか、次女富子を出産するも、

治安維持法・1925＝28歳： 夫由太が急逝脳膜炎で死去。

円本時代始・1926＝29歳： 定兼俊夫と再々婚、連れ子2人を引き受け、4人の子の母となる。

金融恐慌・・・1927＝30歳： 三女妙子を出産するも、

共産党事件・1928＝31歳： 死別。夫は別の女のところに行ったままで、途方に暮れるなか、

世界恐慌・・1929＝32歳： 雑誌{キング}で、寝たきりの障害者ながらキリスト教説く座古愛子を知って、神戸女学院に訪問、甦り、

満州事変・・1931＝34歳：

国際連盟脱退1933＝36歳： 自分を食い物にしてきた夫に耐え切れず、離婚。

帝人疑獄事件1934＝37歳： *年下の中村敏雄と4度目の結婚、ようやく家庭に平和が訪れる。愛知県三河で小屋かけした際、感銘した思想家伊藤証信の夫人あさ子と出会い、証信との交流が始まる。

日中戦争始・1937＝40歳： 見世物興行を止めることを決意、あさ子がつくってくれた後援会に支えられ、東京日比谷公会堂において、世界の聖女ヘレン・ケラー女史と会見、口で縫った日本人形を贈る。以後、頼まれて講演に出るようになるが、一方、後援会に支えられていることに恥ずかしさを覚え、解散してもらい、興行に復帰。

日米開戦・・1941＝44歳：

近代の超克・1942＝45歳： *津市の観音祭の興行を最後に、二十六年間の見世物芸人の生活に別れをつける。

年金+総武装 1944＝47歳： 夫が出征するが、

敗戦・・・1945＝48歳： 無事、帰還。

以後、講演などで、婦人会、母の会、信仰の集まり、寺院、学校、刑務所等を回る。夫や娘の背に負われて全国を歩く講演は、死の直前まで続く。この間、2人の子を、不自由な体で立派に育てあげる。

「宿命に勝つ」、

極東裁判決・1948＝51歳： 京都府立盲学校においてヘレン・ケラー女史と再び会見する。

三大事件・・1949＝52歳： 「無形の手と足」、

独立回復・・1951＝54歳： 「生きる力を求めて」、

55年体制始・1955＝58歳： 同じ盲学校においてヘレン・ケラー女史と三度目の会見。「私の越えて来た道」、

安保闘争・・1960＝63歳：

タイタイ病始・1961＝64歳： 身体障害者の代表として天皇に拝謁。

全国総合計画1962＝65歳： 三日間、NHKラジオの"人生読本"で、「御恩」と題して放送。

大学紛争始・1965＝68歳： 高山市国分寺の境内地に悲母観音像を建立、開眼法要を営む。

霞ヶ関ビル・1968＝71歳： 高山市の自宅で、脳出血で倒れ、没した。